第71回国民体育大会「希望郷いわて国体」派遣審判報告

堤　　伸　弘

１．はじめに
　平成１９年度の秋田わか杉国体以来、今年度国体の中央派遣審判に指名していただき、１０月１日の審判会議から５日の競技終了までの５日間､岩手県北上市に行ってきました。第１種大会もさることながらサービスジャッジがつく大会も久しぶりということで、緊張感を持って大会に臨みました。

２．概要
（１）会場
　競技会場は北上市北上運動公園北上総合体育館。体育館は天井がかなり高く、プレーヤーにとっては競技しやすいコートでした。コート数１０面。コートマット使用。その周囲は全てオレンジ色のカーペットが敷かれていました。コート間はさほど広くはなく、中央通路も選手団を引き連れて行くにはギリギリのスペースで、もう少しゆとりのあるレイアウトをしてほしかった。選手招集所・控室は、体育館内にあるサブアリーナで、本部席はステージ上に設置されていました｡選手招集所とのやりとりは全てインカムで行っており、選手入場等スムーズに行われていました。審判控室は２階、集合時間は試合開始３０分前と決められていてみんなそれに従い行動していたので、特に集合が遅れるというトラブルもありませんでした。
　２階観客席はそれほど多くはありませんでしたが、応援は試合が進むにつれヒートアップしていきました。

（２）審判員
　濱中勉競技役員長（レフェリー）、鈴木満弥競技審判部長
　中央派遣審判１０名（北海道、青森、宮城、千葉、京都、三重、高知、大分）
　東北派遣審判２６名（開催地含む）
　協力審判　　１６名　　計５４名
　線審　８５名（地元高校生含む）
　得点係　１２８名（地元高校生）
　主審・サービスジャッジは１コート２チーム編成で担当。１チームは主審・サービスジャッジ３名、線審４名で構成。最終日のみ６人線審となりましる。１試合１マッチ毎に主審とサービスジャッジを替えました。

３．大会報告
（１）審判会議　北上市生涯学習センター　　１５：３０～
　　レフェリーから
　　・それぞれの審判のレベルが、この大会を通してあがっていることを期待する。
　　・審判がビシッと締まっていれば大会は成功裡に終わる。
　　・ステンシルマークについては、広告に当たるので、もし見つけた場合は同色のマジックでストリングスを塗って対処。
　　・応援旗は規定ありで許可。
　　・コートサイドの汗ポイは注意のみ。コート内で行って「コートの汗拭いて」は遅延行為として処理。
　　・試合前の練習は必ず2分以内で行ってもらうこと。
　　・コイントスはそれぞれのコートサイドに選手を立たせ、それぞれの主審のやり方で行うこと。
　　・コーチングシートでの服装は、必ず長ズボン（七分丈可）。何かあったらレフェリー対応。

（２）監督会議　ホテル　ブランニュー北上　１７：００～

（３）開 始 式　ホテル　ブランニュー北上　１８：００～
１８：００～　レセプション　ホテル　ブランニュー北上
２３：００　　就寝

（４）大会１日目　１０月２日（日）
　５：３０起床　６：００朝食　７：３０ホテル出発　７：４５試合会場着
　８：００～ミーティング
　　レフェリーから
　　・線審とのアイコンタクトをしっかり
　　・練習用のシャトルは筒に戻すこと
　　・主審側の得点板はサービスジャッジが見ること
　　・試合球はTOURNAMENTを使用
　　・主審の３人目は裏の通路を通って本部横で待機

　８：３０～コート整備（第１コート担当）

その後各コート毎に打ち合わせ。支柱の片方が５mm低かったので直す。
９：００　招集所集合
９：３０　１試合目　少年女子　秋田県ー愛媛県０－２
ダブルスＵＰ
神奈川県・岩手県の方と組んで審判を行いました。第１試合ということで、一番の入場は緊張しました。練習時間各マッチごと２分間。久しぶりの主審なので少々ドタバタしましたが、試合はダブルスはどちらもフェアな試合展開。何事もなく終了。シャトルの交換も主審→サービスジャッジの流れが出来ていてスムーズに行われました。線審がかなり緊張していたので、緊張をほぐす方策を考えていかなければならないと感じました。
１２：００　招集所集合
１２：３０　２試合目　成年男子　富山県ー福島県２－０
ダブルスＤＯＷＮ　１シングルスＵＰ
男子の試合なのでサーブが油っこいかなと予想していましたが、両チームとも特に問題なかったです。シャトルはスマッシュが多くすぐにつぶれました。シャトルの交換について2人の主審担当と打ち合わせ。正しく飛ばなくなったことが確認できた段階で主審から交換もありと確認しました。
１５：００　招集所集合
１５：３０　３試合目　少年女子　福井県ー愛媛県０－２
１シングルスＤＯＷＮ
サービスジャッジの役割について確認。線審が気付かないときにはサービスジャッジが動いて指示した方がマッチコントロールがしやすいことを確認しました。
１８：３０　全試合終了
１９：３０　懇親会
２３：００　就寝

（５）大会２日目　１０月３日（月）
５：３０起床　６：００朝食　７：３０ホテル出発　７：４５試合会場着
８：００～ミーティング
レフェリーから
・オンマイライト～のハンドシグナルは選手に向けて。
・線審の声が小さい。主審、サービスジャッジが声かけを。
・主審の声も小さい。
・サービスジャッジの座り方。すぐに声を出せる姿勢ですわること。
・主審の時レシーバーしか見ていない人がほとんど。サーブを打つ直前までサーバーを見てからレシーバーを見るように。
・得点のコールは選手に言うわけではないので、正面を向いてすること。
・サインをもらう。マッチワンバイ～のコールが終わったら審判台から降りること。
・エアコンは選手のためではなく観客（サポーター）のためにかける。環境を整えるためにかける。
・コートイン･コートアウトの時間との試合開始時間・終了時間は違うので注意すること。
・ベスト８がかかっているので、しっかりジャッジすること。
８：３０～コート整備（第２コート担当）
１１：００　１試合目　成年女子　岐阜県ー島根県２－１
ダブルスＵＰ　２シングルスＤＯＷＮ
福島県・長崎県の方と組んで審判を行いました。ダブルスは１ゲーム目は特に問題もなく終わりましたが、ファイナルゲーム６－７の時に島根の選手にパートナーが打ったシャトルが目に当たり、プレー中断、レフェリーを呼んで対処し、３分後にプレーを再開しました。レフェリーとのコンタクトの方法をサービスジャッジを走らせるなど工夫しなければと感じました。
１５：００　２試合目　少年女子　福岡県ー石川県１－２
１シングルスＤＯＷＮ　２シングルスＵＰ
９：３０から会場の試合が始まりましたが、一巡目の試合から第２シングルスまで行う混戦が続き、１１：００の試合と今回の試合はコートを変更しての実施でした。もつれはしたものの特に大きな問題もなく終了しました。
１８：３０　全試合終了
１７：３０　夕食
０：００　就寝

（６）大会３日目　１０月４日（火）
５：３０起床　６：００朝食　７：３０ホテル出発　７：４５試合会場着
８：００～ミーティング
レフェリーから
・敗者チームには表彰式の案内を渡すように。
・肘をしっかり伸ばして選手紹介をするように。
・サービスジャッジの動き、１１点の時には座っているように。
・スケールは練習の前に終えるように。
・ウエアについては腕をまくる、ウエアで汗を拭く等の行為は特に注意しない。
・気を引き締めてジャッジをすること。
・サービスジャッジはラケットの残像を見るように心がけると的確なジャッジができる。シャトルの交換はサービス権のある方に渡すように。

・インターバル中にも全体を見渡すようにすること。
・主審･線審･サービスジャッジともにアイコンタクトをしっかりとること。
８：３０～コート整備（第１コート担当）
９：３０　１試合目　少年男子準々決勝　福島県ー長崎県２－０
ダブルスＵＰ
神奈川県・岩手県の方と組んで審判を行いました。特に問題もなく試合が運びました。
１１：３０　２試合目　少年男子準決勝　福島県ー熊本県２－１
ダブルスＤＯＷＮ　１シングルスＵＰ
どの試合もファイナルまでもつれ込む試合でした。試合時間もそれぞれが１時間くらいかかる接戦。しかし、どの試合も特に息抜きをするための時間稼ぎをすることもなく最後までしっかりと試合を行っていました。
１８：００　全試合終了
１９：３０　夕食
０：００　就寝

（７）大会４日目　１０月５日（水）
５：３０起床　６：００朝食　７：３０ホテル出発　７：４５試合会場着
８：００～ミーティング
レフェリーから
・決勝は閉会式もあるので１３時には終わらせたい。２面で開いてやることもある。
・線審は６人体制で行う。
・件名と選手が入れ替わっていることがあったので注意すること。
・勝者サインの間違いがあったので確認。
・かごの一をしっかり確認。
・正しい用語でアナウンスすること。
・サービスフォルトをきちんととれているかしっかり。
・自分が決勝に進んだという気持ちで審判すること。間違いがあったらきちんと訂正すること。
８：３０～コート整備（第５コート担当）
９：３０　少年男子　３，４位決定戦　熊本県ー岡山県２－１
ダブルスＵＰ
どの試合もファイナルまでもつれる接戦でした。特に大きな問題もなく試合は進みました。
１１：００～決勝戦
１３：００　会場退場
２０：００　小樽着

４．最後に
試合時間に関しては、短いもので４０分、長いもので１時間半。男女ともに攻撃的なラリーが長く、試合が長いのが特徴的でした。特にドライブやドリブンクリアが多く、機会があれば攻める姿勢が要所要所に見られる試合が多く、審判も気を引き締めてやらなければと感じながら行いました。
大会で力を入れたことは、サービスジャッジの仕事についてでした。主審とのコミュニケーションをとりながら主審の片手となって色々なことをやらなければならなく、普段やっていない事もあり、業務内容を熟知するのに場数を踏まなければなりません。その点においては前回の国体の審判の時よりはスムーズにできたような気がします。最終試合が終わったときに濱中レフェリーにアドバイスをいただいたときに「さすが、ベテランだね。」とお褒めの言葉をいただけ長い間審判をやっていてよかったと感じました。今後、地区大会・全道大会において今回経験してきたことを他の審判員にも伝えていけたらと考えています。
今回を含め東北地区での全国大会の主審は３度目でした。これも何か縁を感じます。濱中レフェリーとも再び一緒に仕事をさせていただけることに、今回中央派遣に推して下さった北海道バドミントン協会に感謝申し上げます。本当にありがとうございました。